

はじめまして。私は、野々村真美と言います。今回シアターアートのサイトをお借りし日本人の皆さんに私の6年間のセントラルワシントン大学での体験、経験そして見つけた希望と夢について聞いて頂くと共に、アメリカでシアターアートの勉強を経験してみたい方、興味がある方、アメリカ在学中でどの学部を専攻しようかと迷っている日本人の皆さんにこのメッセージを通して何か今後の進路の参考にしていただければ良いかと思います。

私がアメリカに来たのは、とりあえず英語が喋れる様になりたいと言う単純な理由でした。日本の高校卒業後、CWU付属の語学学校に一年だけと言う両親との約束でやって来ました。1年間で英語を習得しよう！なんて甘い考えでした。“このまま日本に帰国はしたくない。もっともっと英語を学びたい！”そんな意欲と勢いでCWUに入学したものの、英語が学びたいと言うだけで、これといって専門的に勉強したいものがなく、始めは学部を決めるのにかなり悩みました。昔からアートに興味があったもののアートを専攻したところでそれを生かした仕事を見つけるのは難しい・・・ やっぱり今後の事を考えるとビジネス、コンピューターサイエンス、マネージメントなどを選択する方が無難なのかもと思いました。でも4年間もそれを専門として学ぶなら、何か興味があって尚且つ楽しんで好きになれる勉強をする事も最も大切と思い、ファッションマーチャンダイジングを専攻する事にしました。この学部ならビジネス、リテイル、マーケティングと色々な分野を学べるし、興味のあるファッションについても知る事ができて私にとってはBESTな選択だと考えました。

あっという間に1年、2年、3年と時間が過ぎ、私の専門学部のクラスも殆ど取り終わり、後一年で卒業という時期に ふっと自分の大学生活を振り返り、自分にはコレといった技術や人よりも優れている物が無い事に気付く、このまま卒業しても良いのかと疑問を感じ始めていました。そんな時、友達の誘いでシアターアートの“Costume/Fashion Drawing”というクラスを取る事になり、その時はただ軽い遊び心で取っただけでした。でもこれが切っ掛けで私の大学生活が一転する事になったのです。そのクラスで人体形や物の影など色々なオブジェクトの描き方、コスチュームデザインの基礎、オイル、インク、水性画などの色々なメディアの使い方を学びました。たまには徹夜する事もあったけれど、それが苦になるどころかむしろ楽しかったり、今までに無い充実しているという実感がありました。

そのクラスが切っ掛けとなりシアターアートの学部について調べてみたり、教授にもお話を聞かせて頂いたりして行く内に、私がおもっていたシアターアートに対してのイメージがもの大きく変わりました。この学部の実情を知る前は、“Theatre Art? 何それ?ただ劇とかするだけなんじゃないの? そうしたいして将来性なさそー。” などと思っていました。結構この学部の事やどんなクラスが有るのか知らない人達が多いと思います。私自身も6年この大学にいて2年位前に知りました。思った以上にすごくオーガナイズされた学部で、以外と面白いクラスが一杯あります。“THEATRE ART”と大きくまとめるといまいちピンとこないと思いますが、シアターアートにもいくつかの分野があって(例えば証明、ステージ、メイクアップ、コスチューム、ミュージックなどなど)またその分野から細かく枝分かれをして行き、たくさん技術者が集まってやっとなつの物を作り上げることができるのです。

私はコスチュームデザインに興味があり Costume/Fashion Drawing のクラスを切っ掛けにその後もシアターアートからコスチュームデザイン、メイクアップ、ハット・アクセサリーメイキングなどのクラスを取ったりしていました。最終的にはシアターアートの教授のサポートと共に“Individual Studies Major”といって自分だけの専門学部を作りました。主にコスチュームデザインに関連しているクラスを色々な学部からかき集めて自分の目的にあった物を集中して勉強しています。この学部を作ったおかげで、2003年秋のプロダクション“WEST SIDE STORY”ミュージカルのコスチュームデザインを手がけさせて頂いたり、展示会に私の作品を展示して頂いたり色々な経験する事が出来ました。今、やっとなつ将来の目的が見えてきています。

ARTといっても幅広く、いろいろな分野があって、その中でも1つ自分がやれる！これなら出来るかも！と思う物を見出したら、それを自分の物にする事で、今まで夢であった物が夢では無く現実の物として感じる事が出来るように成ったと思います。やっぱりチャンスは待つのではなく自分で作り出すものだとすごく実感しています。

私が特に皆さんに知ってもらいたい事は、CWUのシアターアートの環境です。教授、生徒、スタッフ、皆とてもフレンドリーで生徒も教授も友達のように接し会い、皆すごく生き生きろして見えます。自分達のしている事にすごく誇りをもっていて、一生懸命でお互いを助け合いながら皆で1つの物を協力して作り上げて行こうとゆう姿勢が、このような学部は結構珍しく私はとても共感を持っています。このメッセージを通して日本人の皆さんにセントラルワシントン大学のTHEATRE ARTに少しでも興味をもってもらえれば嬉しいです。

5月末迄には、それぞれの分野について紹介などのサイトを作成する予定にしているのでまた目を通してくださいね。もっとセントラルワシントン大学やシアターアートについて知りたい方は気軽にメールして下さい、お待ちしております。

野々村 真美